

日本医史学雑誌三十巻総目次

原著

共和政期ローマ軍内の医療従事者

について……………小林 雅夫……………一〇二

川崎市蟹ヶ谷にある幕府医官人見

氏の登城……………深瀬 泰且……………一〇四

愛生館の機構について(一)

『東谷御林人参一卷』と松平君山……………安江 政一……………一〇五

フランス人解剖学者オゾー作のキ

ュンストレレーキについて……………石田 純郎、ベレム・

ヨップ・ムルダ、ハルム・ボイケルス……………一〇六

牛痘種痘法奨励の版画について……………添川 正夫……………一〇七

『John Hunter』The Founder of Pathological

Anatomy and Experimental Surgery……………Junji MACHI……………一〇八

中條帯刀と中條流産科……………山形 敏一……………一〇九

日本に牛痘苗の活着したことを報じた *Japanese Courant*

(一八五〇年一月五日付)の記事について……………添川 正夫……………一一〇

肉食および菜食と仏教とのかわりあり……………杉田 暉道……………一一一

愛生館の機構について(二)……………沼倉 延幸……………一一二

江戸医学館の考試辨書『癩癩狂辨』について(第一報)

……………岡田 靖雄……………一一三

——当時の精神病学説をみる——……………岡田 靖雄……………一一三

望月三英と蘭方・和方……………石田 秀実……………一一四

藤野殿九郎の学歴とその時代背景……………泉 彪之助……………一一五

波江抽斎と津軽一粒金丹……………松木 明知……………一一六

オランダ医官・ボンベが我が国にもたらした頭蓋骨の

由来に関する調査……………神谷敏郎、金沢英作……………一一七

研究ノート

ライデン民俗博物館所蔵 桂川甫賢『人面瘡図説』

について……………片桐 一男……………一一八

津軽の阿片に関する新知見……………松木 明知……………一二〇

「オンシャク」狂大病説に対する疑義……………松木 明知……………一二一

司馬江漢の西遊をめぐって……………宗田 一……………一二二

ボンベが日本で採集した動物標本について……………金沢英作、神谷敏郎……………一二三

ボンベの動物標本に関する書簡について……………石田純郎、ハルム・ボイケルス……………一二四

薬の歴史—その使用価値の考察……………安江 政一……………一二五

資料

明治初期の長崎の英字新聞記事にみる

在日外国人医師名……………石田 純郎……………一二六

An English Translation of the Latin Preface of

Brunner's, *Experimenta nova circa pancreas*,

(1683)……………Rikuo NINOMIYA……………一二七

明治初年の東京大学医学部「方函」……………小関 恒雄……………一二八

第85回日本医史学会総会演題目次

特別講演

- 吉田長淑とその学統……………津田 進三…二九〇～二九三
E・ベルツの「憑依とその類似状態
について」……………安井 広…三三〇～三三三

会長講演

いわゆるターヘル・アナトミアの脚註

- について……………酒井 恒…一三〇～一三七

一般口演

- 1、佐賀藩の『医師免札姓名録』について
(その一)……………酒井 シヅ…一三八～一三九
- 2、幕末における医学研修……………深瀬 泰且…一三九～一四一
- 3、村上田長について……………川島 真人…一四一～一四四
- 4、本邦に全身麻酔を伝えた高嶺徳明
の事蹟……………松本 明知…一四四～一四六
- 5、山脇東洋およびその一門の解剖の地
……………宗田 一…一四六～一四八
- 6、『解屍編』刊行以前の河口信任の解剖
……………川島 恂二…一四八～一四九
- 7、伏屋素狄の『実験記録ノート』
について……………三宅 宏司…一五〇
- 8、金沢における明治中期の剖検記録
—第四高等学校医学部—……………寺畑 喜朔…一五〇～一五三
- 9、一八六二年(文久二年)麻疹の

- 大流行と長州藩……………田中 助一…一五三～一五五
くすりの歴史—その使用価値の考察—
……………安江 政一…一五五～一五七

- 11、カスガイ膏の伝承について—アンプロアズ・
パレとわが国の外科—……………大村 敏郎…一五七～一六〇

- 12、日葡辞書から見た安土桃山時代の医学(四)
生理並びに病理現象……………亀 節子…一六〇～一六三

- 13、中条帯刀と中条流産科……………山形 敏一…一六三

- 14、ポードインの持帰った日本の美術品六〇〇点
と日本の写真(一八六二—一七〇)一三〇枚
……………石田純郎、H・ポイケルス、H・E・ヘンケス…一六四～一六六

- 15、宮城県蔵王町平沢「だるま堂」
について……………玉手 英典…一六六

- 16、歯の名称について……………本間 邦則…一六七

- 17、ドイツ医学採用(明治三年)前後
の別な事情(三)……………原口 忠男…一六六～一七〇

- 18、私立医学校済生学舎のこと……………神谷 昭典…一七〇～一七三

- 19、明治時代の公立医学校廃止の顛末
(その三)……………西川 濱八…一七三～一七五

- 20、昭和十年改正の算術教育変更方針とその後の
初等・中等・数学・理科教育の改革ならびに
大学・理科教育改正との関連性について

- ……………柴田 幸雄…一七五～一七七

- 21、日本産業の黄燐中毒……………三浦 豊彦…一七七～一八〇

- 22、佐久間貞一の「八時間労働」……………森 博…一八〇～一八三
- 23、初期の植民地医療における現役軍医の役割
—殊に台湾、韓国において—……………佐久間温巳…一八二～一八四
- 24、救急法に関する二、三の成書
……………谷津三雄・鈴木 勝…一八五～一八六
- 25、日本医学放射線技術史における
梅谷友吉小伝……………今市 正義…一七七
- 26、新島襄とドイツ……………守屋 正…一七七～一七八
- 27、Jisegang の組織学への貢献……………中村 三雄…一八九
- 28、藤野殿九郎の学歴……………泉 彪之助…一九〇～一九二
- 29、愛知医学校卒業生藤野殿九郎と
教科書……………藤野恒三郎…一九三
- 30、近代日本における診療録の歴史……………長門谷洋治…一九三～一九五
- 31、江戸医学館の考試弁書『癩癩狂弁』について
—当時の精神病学説をみる—……………岡田 靖雄…一九七～一九七
- 32、近世、因伯における狐つき、
狐持ちの俗信……………森 納…一九八～一九九
- 33、Acedia—メランコリーの中世版……………大橋 博司…二〇〇～二〇一
- 34、資料を通して見た平安時代の医学の
社会的側面について……………MACÉ・美枝子…二〇一～二〇三
- 35、『多聞院日記』に現われる伝染病の検討
……………中村 昭…二〇四～二〇五
- 36、縄文土器・土偶の産科学的考察……………石原 力…二〇六～二〇八
- 37、江戸期の子育ての書に現われた
乳幼児発達観……………小嶋 秀夫…二〇八～二一〇
- 38、石坂宗哲の医学について……………石原 武…二二二～二三三
- 39、『医心方』に見える鑑真方について
……………三井 駿一…二二三～二二五
- 40、『医心方』の伝写について……………杉立 義一…二二五～二二七
- 41、中国医学と道教(Ⅳ 善書について)
……………吉元 昭治…二二七～二二九
- 42、『外台秘要方』による古医籍輯佚の
検討……………小曾戸 洋…二二九～二三三
- 43、『金匱要略』の古版本二種について
の新知見……………真柳 誠・小曾戸 洋…二三三～二三四
- 44、中国伝統医学修得学生の漢語素養
について(最終報)……………小杉 順一…二三四～二三六
- 45、中国における「医は仁術」の思想
と史的変遷……………山本 徳子…二三七～二三八
- 46、素問靈樞に於ける氣の研究……………家本 誠一…二三八～二四〇
- 47、安土桃山時代に於ける吉田家と
曲直瀬家の関係について……………安井 広迪…二四三～二四三
- 48、名古屋玄医の医学思想と『医方問余』
について……………花輪 壽彦…二四三～二四四
- 49、内藤希哲の医説……………丸山 敏秋…二四五～二四七
- 50、津田玄仙の理想とする漢方医学教育
……………平馬 直樹…二四八～二五〇
- 51、水野皓山と山本読書室……………遠藤 正治…二四四～二四四
- 52、江戸時代後期の小兒科学……………安達原暉子…二四二～二四四

例会講演要旨

オランダで採訪の二、三の史料について

.....片桐 一男..... 六〇〇

緒方家本「和蘭詞解略説」について.....沼田 次郎..... 六〇〇

跡見玄山と適塾.....田崎 哲郎..... 六〇〇

日本のインタン制度.....山本 俊一..... 六〇〇